

## オリジナルテキスト

# お客様に資産運用の必要性を説くのはなぜ？

### スライド1 「資産運用が必要な理由」

お客様に資産運用の必要性を説明する最大の理由は、お客様のライフプラン実現のために、「運用利回り」が重要な役割を担うためです。

### スライド2 「理想の人生にはお金がかかる」

お客様が自身の望む人生を送るためには、ライフプランを立てる必要があります。ライフプランの中には、「結婚」「子供誕生」「住宅購入」「リタイア」などのライフイベントがあります。これらには、当然お金が発生します。例えば、リタイア後の生活費は「1億円が必要だ」ともいわれており、公的年金等からの給付を差し引いた2,000万円～3,000万円は自分で準備しなければなりません。

### スライド3 「必要なお金を準備する」

こうしたライフイベントにかかるお金を準備することを「マネープランを立てる」といいます。では、ライフイベントに必要な資金は預金だけで準備できるものなのでしょうか。現在は低金利が続いているため、元本保証の預金だけで資金を準備するのは難しい状況です。

### スライド4 「預金のみで老後資金を準備する」

具体的に見ていきましょう。例えば、豊かな老後を過ごすために、2,000万円が必要だとします。これを今後20年で準備しなければならないと仮定します。現在、預金にはほとんど金利が付かないので、年0%の利回りとして計算します。20年間で2,000万円を作るためには、毎月おおよそ8万3,000円の積立てが必要になります。一般的な会社員が、毎月8万円以上を積み立てていくのは、なかなかできることではありません。

### スライド5 「投資信託を使って老後資金を準備する」

では、同じ条件で運用利回りを味方につけた場合、どうなるか見ていきましょう。投資信託での運用利回りを年5%として計算していきます。この場合、20年間で2,000万円を準備するには、毎月約5万円を積み立てていけばよいことがわかります。預金だけで準備するのと比べると、ハードルが下がったといえるでしょう。

### スライド6 「預金と投資信託の積立て比較」

預金と投資信託の積立てを比較していきます。年0%の預金の場合、20年間で2,000万円を準備するには毎月おおよそ8万3,000円の積立てが必要でした。一方、投資信託で年5%で運用できたとすると、毎月約5万円の積立てとなります。運用利回りを味方につけることが、資産形成において大きな意味を持つことがわかります。

### スライド7 「運用利回り5%って実現可能？」

ところで、運用利回りとして年5%は実現可能なものなのでしょうか。これは、金融庁のパンフレット「つみたてNISA早わかりガイドブック」に掲載されているグラフです。国内外の株式や債券に分散して、積立て投資を行った場合の運用成果の実績を示しています。20年間、毎月同額を積み立てた場合、年率2%~8%の利回りを得られる可能性が高いことを示しています。この結果を見ると、年5%の運用利回りは十分達成可能な水準であるといえます。

### スライド8 「長期分散投資の効果」

これは過去の実績をもとにした算出結果であり、将来の投資成果を保証するものではありません。しかし、長期分散投資を行うと、運用の成果を得やすくなるのは事実のようです。

### スライド9 「資産運用を提案するのは…」

お客様のライフプラン実現には、お金が必要です。しかし、そのお金を預金だけで準備するのは、とても難しい状況にあります。そこで、投資信託等を活用し、運用利回りを味方

につける必要が出てきます。私たち金融機関の行職員が、お客様に投資信託を提案するときには、長期分散投資の考え方をお伝えし、時間をかけてお金を準備していく方法をお伝えしましょう。